

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2016.3.26)

河口無線で開催された [LuxのフォノイコライザーE-250](#) の試聴会に行ってきました。
2週間前の[M2TECのフォノイコライザーの試聴会](#)に引き続いてのアナログ関連の試聴会ということになります。

<使用機材>

以下のようなラインアップで計画され、試聴会が進行しました。



E-250 ¥138,240

フォノイコライザーアンプ：ラックスマン E-250

レコードプレーヤー：ラックスマン PD-171A

プリアンプ：ラックスマン C-700u

パワーアンプ：ラックスマン M-700u

SACD プレーヤー：ラックスマン D-06u

スピーカー：B&W 802D3



当日のセッティング

<試聴の経過>

E-250 の解説は E-200 の後継機ということでしたが、オーディオ用のパーツが入手困難になり、設計上新規に起したようなものとなり、詳細仕様と機能は前述の [Lux のフォノイコライザー E-250](#) のメーカーサイトに記載されています。これによれば、E-250 は非常に多機能で、カートリッジへの負荷インピーダンスや負荷容量への対応の選択肢が豊富であり、イコライザーカーブは RIAA のみ対応、イコライザー回路は NF 型ということです。使用カートリッジはハニワブランドのもので、後で聞くとマイソニックの仕様改良版だそうです。今回は MC 端子に inputs し、4 オームで受けているとのことでした。また、アンプとスピーカーは、パワーアンプを 2 台使用してのバイアンプ・バイワイアリングで、BTL 接続やパラレルドライブも可能ですが、今回はこの駆動方式を採用したとの説明がありました。

最初に全体の雰囲気を知るという意味で、CD のボーカルがかかりましたが、従来の B&W に比べて、低域のしまりがよく、バランスがよくなっている感じがしました。次にフォノイコを使用したアナログ再生に移り、モーツァルトのアイネクライネがかかりましたが、やや腰高でシャリつく感じがしました。恐らくはイコライザーカーブがデッカカーブの盤ではないかと推測します。

さらに古い録音のボーカルに戻りましたが、同様に音像はクリアーでアナログの良さが出ていますが、ややシャリつく感じがしました。これに対し、同じマスターの DSD リマスターの最近の盤が比較としてかかりましたが、全体として聴きやすい感じにはなりますが、立体感が後退し、平面的でアナログらしい面白みが感じられなくなりました。

次のジャズは聴き疲れしない音でしたが、さらにバッハのチェンバロ協奏曲になると、少し刺激的な音になりました。ちょうどこのバッハのチェンバロ協奏曲はこの前の月曜に [古楽器のコンサート](#) で聴いたばかりですので、余計にそういう印象がしたのかもしれない。この後、ポップス、マリアカラス、ポップス、ジャズのビッグバンドと続きましたが、同じクラシックでもマリアカラスはごく普通の印象で、ポップスの女性の声も自然でしたので、案外ボーカルものには合っているのかもしれない。

<まとめ>

E-250 は多機能でコストパフォーマンスに優れた製品ということは分かりましたが、古いクラシック録音の盤ではイコライザーカーブ選択への対応が欲しいと感じました。

以上

【註】

試聴が始まる前に、M氏に薦められて購入したばかりのラックスのRCAショートピンの効果を店の責任者に依頼して試させてもらいました。カートリッジの入力はMCポジションでしたので、MMポジションに挿していた付属のショートピンを外し、ラックスの市販ショートピンに替えてみましたところ、しゃらしゃらした感じが減って、あたかもイコライザーカーブをデッカカーブにしたような落ち着きのある音になった印象がしました。ラックスの担当者に聞くと、付属のショートピンは電気的にはショートしているが、市販品の方が重量があって振動抑制効果もきいているとのことでした。